

本市の地方創生に関する主な取り組みと人口推移についての報告

地方創生第2期がスタートします



国と地方が一丸となって、引き続き東京圏一極集中の是正と活力ある地方の実現に取り組みます

2015年に開始された地方創生の取り組みが、今年度第1期となる5年間に経過します。この間も日本の人口は減り続け、東京圏への人口の流入は続いています。そのような中、国は、地方での活力ある社会を実現すべくさまざまな施策を講じてきました。

そして、次年度以降も「地方創生第2期」として、地方への人の流れの強化、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることなどの基本目標を掲げ、課題解決に取り組むこととしました。それを受け、本市においても、結城市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020を策定し、市の人口を維持するためのさまざまな事業に取り組んでいきます。

ここでは、第1期の人口の推移と本市の特長ある取り組みを報告するとともに、今後の展望について市民の皆さんと考えていきます。

本市の特長ある取り組み



ここでは地方創生事業の中でも、本市独自の特長ある取り組みを紹介します。

移住・定住促進事業

トライアルワークステイ

「移住は仕事とセット」との観点から、仕事・暮らし・地域コミュニティを包括的に体験できる取り組みです。



宮崎協業で現代の大規模農業を体験

今年度までに6人が本市の「まち・ひと・しごと」を体験しました。

仕事なくして移住なし！移住意識高めめの若者が、本市との関係を築いています。

(担当の商工会議所 野口純一さん)



居住環境の整備推進 新たな産業拠点の形成

土地区画整理事業 工業団地の造成

南部地区および北西部地区の区画整理事業による面的整備を行い、良好な環境を有する市街地の形成を進め、市外からの転入を促進します。

また、結城第一工業団地は新たに14ヘクタールの造成が令和2年5月に完了する予定で、市の工業振興と新たな雇用の創出が期待されています。



良質な住宅地の整備（土地区画整理事業）



食う寝るところに住むとして仕事をするところあった！

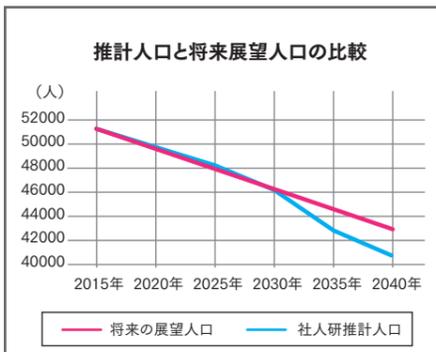


工業団地の拡大

将来の市の人口の見込みは？



社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の最新の推計によると、本市の人口は2040年に41,023人まで減少するとされました。これをさまざまな事業によって、2040年に約43,000人を目標するというのが、地方創生第2期以降のあらましです。



ここ数年間の人口推移を見てみよう！



結城市の常住人口推移



※各年1月1日現在の常住人口
(2015年の人口の数値は2010年国勢調査基準による数値)

解説：自然動態について、ここ数年は出生数より死亡数が上回っており、この傾向は値を増やしつつ、当分の間続いていくことが確実視されています。一方、社会動態については、転入増となっている年もあり、人口が横ばいで推移することもありました。しかし、転出増となっている年は、自然減とあわせて人口減少幅が大きくなっています。(2018年など)

今後、減少幅を少なくするためには、出生数の回復には相当の時間がかかることから、転出する人をとどまらせる、転入する人呼び込むといった施策が必要となります。

ポイント：本市でも減少傾向がうかがえる。みんな結城に帰ってきてほしい！



市民の皆さんへメッセージ



IT人材育成事業の実施 トウモロコシを使ったアイスの開発

本市から人口が流出する理由の一つに、若者にとって働きたい職場がないという声があります。そこで、将来本市を担う高校生が、インターネット販売スキルのノウハウを受講し、将来地元での就職・起業を考える機会を作りました。



鬼怒商業高校の皆さん

また、地元の農産物であるトウモロコシを使った特産品を開発したいという熱意から、1年間にわたり研究・開発を重ねた結果、「とうむぎあい」の製品がなされました。(本製品は、今年度から結城ブランドに認定)

地元の高校生も地方創生にチャレンジしています。

とうむぎあいを一度ご賞味ください！
(鬼怒商業高校 担当教諭 山口吉彦先生)



結城市は2019年の最新データを見ると、出生数が300人を切る中で、社会増減では2年ぶりに増加に転じています。少子高齢化、人口減という重い課題に対し、結城市は長期的な生き残りを図る地域の仕事や暮らしを再定義すべく、その準備を進めています。これには市役所や専門家が取り組むだけでなく、市民の皆さんの意識やビジョンのさらなるバージョンアップが必要な段階でもあり、社会的に求められる変化をいとうわ、明るい結城市の未来の姿を意図できるような取り組みを各所に期待したいと思っています。

市民一人ひとりが地方創生の主役だった！

